

湖尻園地

箱根ビジターセンターは湖尻園地にあり、周囲の景観を簡単に一望できます。センターから道路を挟んで向かい側には、3 キロの周遊コースがあり、117 ヘクタールの園地を通り抜けます。すると、箱根に生息する 2,000 種以上の動植物を、一部を除いてすべて見ることができます。園地内の代表的な植物をご紹介します。ホオノキは、葉が長さ最大 40 センチ、幅最大 20 センチになります。マメザクラは、箱根で最も一般的な桜であり、小さくておいしい実をつけます。生息する動物の例としては、鹿、イノシシ、そして数種のカエルを挙げるすることができます。

人間が介入する前は、この地域は主に、野生のススキで覆われた牧草地でした。1940 年代後半、第二次世界大戦後の都市再建のために木材の需要が高まり、スギやヒノキの植林地を確保するためにススキの牧草地は取り除かれました。この植栽活動は、1949 年に香淳皇后（1903 年～2000 年）と共に箱根を訪れた昭和天皇（1901 年～1989 年）ご自身によって始められました。その際にご夫妻が植えた 7 本の木が、今でも湖尻園地の一角に立っています。

湖尻園地は 1960 年代に設立され、箱根の他の地域から持ち込まれた植物が敷地内で生長しています。この地域に元々あった、ススキをベースにした生態系の痕跡は、子供広場で見ることができます。広場は、緩やかに傾斜する丘の中腹にあり、子供たちが遊ぶのに十分なスペースを備えています。